様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　４ 月 ３０ 日現在

機関番号：３２６８２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ００６８７

研究課題名（和文）『聖グースラーク伝』ラテン語・古英語のテキスト校訂：文体の比較研究に向けて

研究課題名（英文）The Edition of Felix's Vita S. Guthlaci and Its Old English Translations

研究代表者
石黒　太郎（Ishiguro, Taro）

明治大学・商学部・専任教授

研究者番号：６０２９６５４８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：　中世初期イングランドの『聖グースラーク伝』のラテン語原典と古英語散文訳の校訂テキストを作成し、ラテン語を翻訳した古英語散文訳の文体研究に資することを目的とした。研究期間中にラテン語原典の13写本、古英語散文訳の2写本をもとにそれぞれの校訂テキストを作成して、2025年にJane Roberts（ロンドン大学名誉教授）と共著の校訂本として刊行予定である。校訂テキストを作成する過程で、ラテン語、古英語、双方の文体に関する研究を発表することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　『聖グースラーク伝』のラテン語原典はおそらく9世紀末に英語に翻訳され、そのテキストが10世紀と11世紀のふたつの写本に残っている。本作品は、古英語の翻訳作品の中では珍しく、対応する箇所がラテン語・古英語の双方に見出せる比較的忠実な翻訳である。本研究では語学的な比較研究に耐えうる、ラテン語原典と古英語散文訳の現代的な校訂テキストを作成した。この校訂テキストは、古英語の語学的な研究のみならず、文学的な研究にも大いに有用な資料を提供することになると考えられる。

研究成果の概要（英文）：This research project mainly focused on making an edition of the eighth-century Latin text of the Life of St Guthlac and its later Old English prose translations. The Latin original has thirteen manuscript witnesses, and the Old English two. The edited texts have been made, collating all those manuscripts. The edition is scheduled to be published in 2025 as a book co-authored with Professor Jane Roberts of the University of London. The book's manuscript is in the final stage of its preparation. I did some research on the stylistic aspects of the Latin and Old English texts as we continued to prepare the edition, which I presented in academic journals and at an academic conference during the present research project.

研究分野：中世英語学

キーワード：古英語　中世初期イングランド　聖人伝　ラテン語

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

ノルマン征服(1066)以前のイングランドで人気のあった聖人 Guthlac (c. 674-714)の伝記は 8 世紀半ばに Felix がラテン語で著し、それがおそらく 9 世紀末から 10 世紀初めに古英語に翻訳された。古英語の翻訳作品としては比較的忠実な翻訳となっているので、たとえば福音書の古英語訳や Bede の『教会史』*Historia ecclesiastica* の古英語訳のように、語法、統語などの面で英語がラテン語から受けた影響を調査する英語史研究に大いに役立つ、重要な資料になるはずのものである。だが残念ながら信頼に足る校訂テキストがラテン語原典、古英語訳ともに存在しないためこの作品を対象とした英語史研究がほとんどなされていない。

ラテン語原典の標準的な Colgrave 版のテキストは、現存する 13 写本から Colgrave が適切と判断する読みを 1 語ごとに選び取って組み合わせた「再建」テキストであり、結果的にテキスト全体としてはどの写本にも基づかない「作られた」テキストとなってしまっている。これは今日のテキスト校訂では評価されない校訂手法である。

その一方で、古英語散文訳の Gonser 版は大きく 3 つの問題をはらんでいる。①現存する 2 写本を底本として双方のテキストを並列させている点は評価できるものの、縮約形 suspension/ abbreviation や句読法 punctuation の扱いの点で、現代の標準的な校訂手法から大きく外れたものとなっている。②ラテン語原典のテキストとして 17 世紀の校訂本 Acta sanctorum から古英語のテキストに該当する部分のみを選んで掲載しているのだが、この Acta sanctorum が底本にしたと考えられる写本は現存する写本の中でも比較的新しい、つまり現存しないオリジナルから遠く離れた写本であり、校訂手法も今日の批評に全く耐えられないものである。③1909 年刊の Gonser 版は現在入手が困難である。国内の大学図書館にも所蔵がほとんどない。

２．研究の目的

本研究は『聖グースラーク伝』古英語散文訳とラテン語原典の現代的な校訂テキストを作成し、ラテン語からの翻訳によって生じた古英語散文訳の文体に見られるラテン語の影響を明らかにすることを目的とした。

ラテン語原典の写本は 13 写本が現存する。Colgrave 以降、これは大きく 2 つの写本群に分類されている。これまでの Roberts (1986)などにみられる語彙の対応調査で、Colgrave の写本記号 sigla でいう C_2 写本を最古とする 4 写本のグループが古英語散文訳に比較的近いことがわかっている。本研究では 17 世紀以降の従来の刊本では底本とすることのなかった C_2 を底本とし、n, E_1, N の 3 写本の校訂テキストを並置したパラレルテキストを作成を計画した。つまり、古英語散文訳に近い群の語句の異同を一覧することで、古英語散文訳が利用した未知のラテン語原典テキストの姿を推定できるようにするのである。そのパラレルテキストを作成した上で、残りの 9 写本と校合し、すでに複数あることのわかっている Colgrave 版の誤謬を正すことができると予想した。このように抜本的に新しい独自のラテン語原典の校訂テキストを作り出し、それと Gonser 版を修正した校訂テキストとを比較研究することで、ラテン語の影響を古英語の統語に見る英語史研究に新

たな知見を生み出すことができると考えたのである。

引用文献 (OE = Old English)：**Colgrave**, B. (1956) *Felix's Life of St. Guthlac.* / **Gonser**, P. (1909) *Das angelsächsische Prosa-Leben des hl. Guthlac.* / **Roberts**, J. (1986) "The OE Prose Translation of Felix's *Vita.*" *Studies in Earlier OE Prose,* ed. P. Szarmach, pp. 363-79.

３．研究の方法

本研究課題はコロナ禍によって大きく変更を強いられた。世界的に研究施設が閉鎖され、国内外への研究出張ができない期間が続き、また本務校でもオンライン授業などの対応に忙殺され、2020～2023 年度の 4 年間のうち、2020～2021 年度は研究時間の確保すらままならないことが多かった。また、2022 年度においても、国外への研究出張が難しい状態が続いていた。そこで当初の計画を大きく変更することになった。

研究方法の大きな変更としてはまず、写本の現地調査を断念して、オンラインで写本画像を所蔵図書館から入手し、それを利用してテキスト校訂の作業を進めることにした。研究計画当初、現地で実物の写本を閲覧するほかはないと考えていた写本についても、幸いにして所蔵図書館から写本画像を入手することができた。

また、当初は古英語散文訳の校訂テキストを主とした校訂本を本研究課題終了後に出版することを見据えて本課題を計画したのであるが、共著者となる Jane Roberts 教授と出版計画を具体化させている中で、古英語散文訳ではなくラテン語原典を主とした校訂本のほうが学界への貢献がおおきいという認識に至った。そのため、C_2 写本を底本とした校訂テキストに盛り込む情報としては同じであるものの、C_2 写本の写本グループのパラレルテキストを作らず、C_2 写本と同時代の別系統の 2 写本、A 写本と C_1 写本とのパラレルテキストを作成し、校訂テキストの基礎資料とした。

校訂作業では C_2 写本の読みを尊重し、ラテン語として意味をなさない場合にかぎり、本文の文言を修正する、保守的な姿勢を貫いた。べつの写本の異読を記録する apparatus criticus を完備し、伝統的なコメンタリー、グロッサリーを作成したうえで、利用者の弁を図るべく、現代英語訳を対訳としてつけたものにした。

古英語散文訳 2 作品についても、ラテン語原典と同じように校訂テキストならびに apparatus criticus、コメンタリー、グロッサリーを作成した。なお、古英語散文訳の 2 作品は、おそらくひとつの源となる古英語散文訳から派生したもので、10 世紀の写本に残る説教用の抜粋と、11 世紀の写本に残る完訳版である。同じ古英語の作品が 100 年を隔てて 2 つの版で残る、英語史上きわめて珍しい資料となっている。そのため、校訂テキストでは 2 作品を並置することにした。

４．研究成果

（1）上述のように 2020～2021 年度はコロナ禍のために研究活動がままならぬ状況が続いた。そのような中で、本研究課題の研究対象に関心を抱くきっかけとなった古英語散文訳の校訂上の問題を論じた論考（"Guthlac *wende þæt he hi æfre gebetan ne mihte*: Text Emendation and Expletive Negation"）、『聖グースラーク伝』を旅のナラティブとして読

むことを提案する論考（「境界を越えて旅した聖グースラークと『聖グースラーク伝』」）などを執筆し、いずれも 2022 年度出版の書籍で発表することができた。

（2）上述の大きな計画変更のあと、2022〜2023 年度はテキスト校訂の作業に大半の研究時間を割いた。そのため発表した論考は少ない。だが、「研究成果の概要」に記したように、本研究課題の成果は Felix's *Life of Saint Guthlac* and Its Two Old English Versions, with Modern English Parallel-Text Translations と題する現代英語の対訳を付した校訂本として 2025 年には出版することになっている。本研究報告を執筆している現在、出版社への提出原稿の最終チェックにとりかかっている。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 石黒太郎	４．巻 91
２．論文標題 『聖グースラーク伝』古英語散文訳のテクスト研究	５．発行年 2025年
３．雑誌名 明治大学人科学研究所紀要	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Taro Ishiguro	４．巻 576
２．論文標題 Guthlac's Doorbell: signum in Felix's Vita S. Guthlaci	５．発行年 2024年
３．雑誌名 Bulletin of Arts and Sciences (Meiji University)	６．最初と最後の頁 129-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Taro Ishiguro	４．巻 38
２．論文標題 Review of Guthlac: Crowland's Saint, edited by Jane Roberts and Alan Thacker (Donington, Lincs.: Shaun Tyas, 2020)	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Studies in Medieval English Language and Literature	６．最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Taro Ishiguro	４．巻 564
２．論文標題 The Classificatory Ambiguity of Old English wa in Its Phrasal Impersonal Construction	５．発行年 2022年
３．雑誌名 明治大学教養論集	６．最初と最後の頁 239-249
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 石黒太郎	4．巻 1
2．論文標題 中世初期イングランドにおける嗜好品としての酒類の語彙研究	5．発行年 2022年
3．雑誌名 食生活科学・文化、環境に関する研究助成　研究紀要（アサヒグループ学術振興財団）	6．最初と最後の頁 47-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Taro Ishiguro	4．巻 1
2．論文標題 Guthlac wende thaet he hi aefre gebetan ne mihte: Text Emendation and Expletive Negation	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Medieval English Syntax: Studies in Honor of Michiko Ogura (ed. by M. J. Toswell and Taro Ishiguro)	6．最初と最後の頁 121-131
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 石黒太郎	4．巻 1
2．論文標題 境界を越えて旅した聖グースラークと『聖グースラーク伝』	5．発行年 2022年
3．雑誌名 『旅するナラティヴ』（大沼由布／徳永聡子編、知泉書館）	6．最初と最後の頁 22-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Taro Ishiguro	4．巻 1
2．論文標題 Intoxicating Drinks in Old English	5．発行年 2021年
3．雑誌名 中世英文学の日々に――池上忠弘先生追悼論文集	6．最初と最後の頁 3-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 石黒太郎
2．発表標題 文法的に明確な分類ができない古英語の事例の考察
3．学会等名 第38回日本中世英語英文学会全国大会
4．発表年 2022年

1．発表者名 石黒太郎
2．発表標題 中世初期イングランドにおける嗜好品としての酒類の語彙研究
3．学会等名 アサヒグループ学術振興財団 2020年度研究報告会
4．発表年 2021年

〔図書〕　計1件

1．著者名 M. J. Toswell and Taro Ishiguro	4．発行年 2022年
2．出版社 Peter Lang	5．総ページ数 392
3．書名 Medieval English Syntax: Studies in Honor of Michiko Ogura	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関